

〈第12回 寺子屋ローカルSDGs学び編〉  
「地域の活動者に聞く 石巻×宮古島の対談  
～“地域循環共生圏に取組む”とは～」

## 宮古島市 発表資料

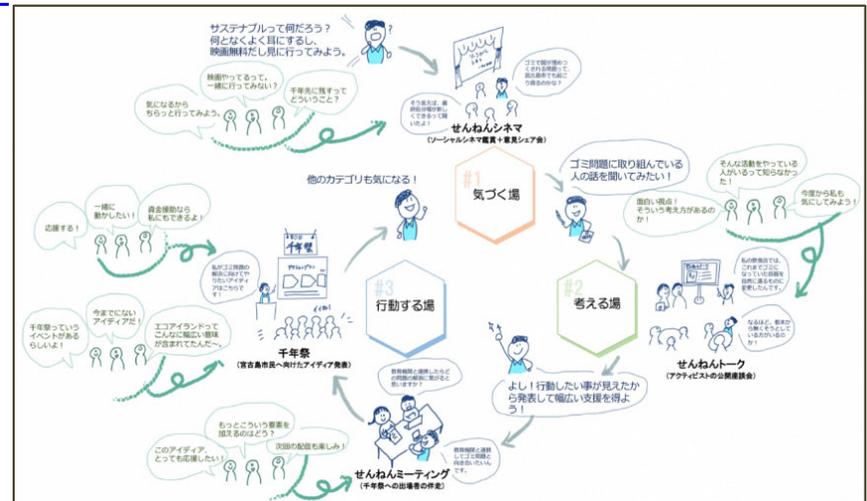
活動におけるテーマ・キャッチコピー

持続的な島づくりのための  
プロジェクト支援と自立的な支援体制構築

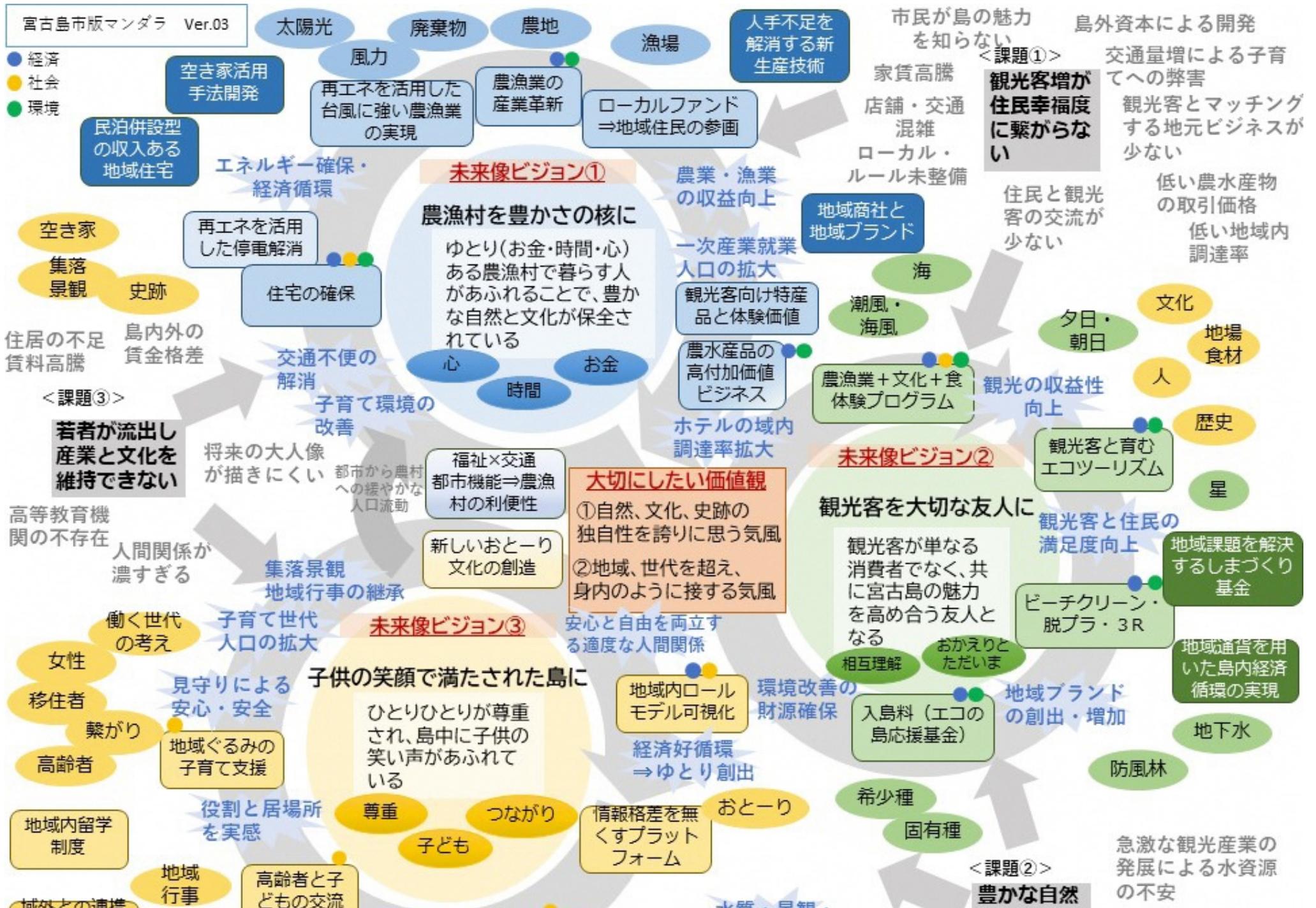
令和3年度 環境で地方を元気にする  
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

# 宮古島市紹介・目指す地域の姿1/2

- 宮古島市は、四方を海に囲まれた隆起珊瑚礁からなる平坦な島で、大きな河川等は無く、台風や干ばつを受けやすい厳しい自然環境にある。（人口：約55,000人、面積：約205km<sup>2</sup>）
- また、地下水に依存しており、生活のみならず農業においても水は貴重なものだった。そんな宮古島の地下水が平成元年に硝酸態窒素濃度の上昇があり、そのことから環境に対する意識の向上があった。2008年に「エコアイランド宮古島宣言」を行い、環境保全・資源循環・産業振興の三本柱で様々な取組を進めてきた。
- 地域循環共生圏事業に取り組むきっかけは、近年の急激な観光客の増加がもたらしたオーバーツーリズムにより生活や環境に対する不安や不満感が市民の間に生じた。環境と社会と経済とのバランスを考えた取組を進める必要性を感じたことから、令和元年度より本事業に取り組んできた。
- 本事業の特設サイト：<https://sennen-pf.studio.site/>
- エコアイランド公式サイト：<https://eco-island.jp/>



# 宮古島市紹介・目指す地域の姿2/2



# 地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

<b>事業名称</b>	「せんねん祭（千年先の宮古島市に向けた、アイデア発表会）」
<b>事業の あらずじ・ ストーリー</b>	これまでの取組を更に強化すべく、持続可能な島づくりに寄与する新たな市民プロジェクトの伴走支援と、それに向けた市の雰囲気醸成するイベントを同時並行で実行することで、市民・民間・役所が一体となったエコアイランド宮古島の実現に向けた事業を行う。
<b>今年度の 取組</b>	<p>今年度、新たな取組として「せんねんシネマ」「せんねんトーク」「せんねんミーティング」「せんねん祭」といった様々な取組を実行した。</p> <p>(1)「せんねんシネマ」：ソーシャルシネマ（社会課題を扱う映画）を市民と共に鑑賞し、宮古島市の持続可能性について知る場。</p> <p>(2)「せんねんトーク」：宮古島市内で活動する方をゲストに招き、事務局との対話を通して、活動を紐解き、事業の背景や、持続可能な島づくりとの関連について学ぶ場。</p> <p>(3)「せんねんミーティング」：2月開催の「せんねん祭」に向けて、出場者が自身のアイデアを事務局とともにブラッシュアップしていく取組。その会議の様子をオンラインで配信及びアーカイブできるようにした。</p> <p>(4)「せんねん祭」：千年先の宮古島市に向けた新たな市民アイデアを発表する日として実施するこれまでの事業の集大成イベント。発表されたアイデアに対する賛同の声を集める期間を設け、市民参加のできるイベントとして実施した。</p> <p>コロナ禍であることから、それぞれのイベントは現地開催やオンライン開催を都度調整しながら実施した。参加する市民との対話の時間を大切に、持続可能な島づくりを進めることの意義を共有できるよう努めた。今年度からスタートした新たな取組であることから、市民への周知を図るためHPや新聞等を積極的に活用したが、参加が少ない回もあった。事業の取組を紹介する手段の必要性から、新たなポータルサイトを構築するなどした。</p>
<b>進捗状況</b>	当初の目標としていたイベント等を実行することができた。特に「せんねん祭」においてお二人の市民からの新アイデア発表を実施して頂いたことは、大きな成果と感じている。

# 今年度の取組を通じて得た気づきや課題1/3

- プラットフォーム構築・運営にあたり、「知る・深める・始める・生み出す」をコンセプトに、「せんねんトーク」や「せんねんシネマ」といったイベントを軸に、市民を巻き込みつつ、市民のアイデア発表イベントである「せんねん祭」に繋げていく事業を実施した。

主催：宮古島市 企画政策部 エコアイランド推進課

## #8 せんねんシネマ

ソーシャルシネマ（社会課題を扱う映画）をきっかけに、参加者全員で「持続可能な宮古島市」を考える場です。

申込フォーム

対象 ▶ 宮古島市民

締切 ▶ 1.21 (金)

QRコード

1月の作品 「最後の楽園コスタリカ ~オサ半島の守り人~」

地球上の宝石のような自然豊かな国コスタリカ

コスタリカは、1948年に軍隊を撤廃した非武装永世中立国。平和で社会福祉が充実し、国民の幸福度も高い。しかし、世界的により知られているコスタリカの魅力は豊かな自然だ。コスタリカは世界的にエコツーリズムの発祥の地として知られ、人気のデスティネーションとなっている。広大なアメリカ大陸のど真ん中、中米に落とされた宝石のような存在で、四国と九州を合わせた程度の大きさに、地球上の全動植物種の約5%が生息しており、単位面積当たりの生物多様性世界一とされている。そして、国土の約4分の1を自然保護区または国立公園にしている。

最後の楽園コスタリカ  
オサ半島の守り人

2022.1.23 SUN 14:00-15:30 参加無料 | オンライン開催

## #8 せんねんトーク

宮古島市内で「持続可能な宮古島市」につながるアクションを行っている方々による宮古島市の持続可能な未来について考える公開座談会

2/3 木 19:30~21:00

要申込

視聴だけしたい！  
そんな方はYouTubeから

オンライン開催

ゲストと対話したい！  
そんな方は「事前申込」を

QRコード

Guest

Yoshihama Takahiro  
吉浜 崇浩

#自然と共存 #蟹蔵

#自然を学ぶエコツア-  
#入り江をまもる

せんねんトークは公開座談会なので、市民の皆さんもリアルタイムでお話を聴いていただくことが可能です。市出身者だけでなく、市外にいる方の参加も大歓迎です！

宮古島SDGs推進プラットフォーム構築・運営業務事業  
主催：宮古島市企画政策部エコアイランド推進課



# 今年度の取組を通じて得た気づきや課題2/3

- プラットフォーム構築・運営においては、各イベントにおいて、共通のテーマのもと実施した。特に、「せんねんシネマ」「せんねんトーク」は各回のテーマを連動させるなどし、イベント参加に対するメリットが高まるよう工夫した。



千年祭（2月開催）に出場予定の方が、その日に向けてアイデアを練り上げていく工程とその打ち合わせの様子をライブ配信します。

せんねんミーティング  
@せんねんポータル  
（フェイスブック内）

より良い島に向かうための  
未来のアイデアについて考える日。

with 松原正明さん  
2022.1.18[TUE]  
12:00-13:00

宮古島5G推進プラットフォーム構築・運営業務事業 | 主催：宮古島市企画政策部エコアイランド推進課



- （課題）参加者が少ない回があったことから、イベントの進行や実施時間等、今年度の経験・反省を次年度に活かしたい。

# 今年度の取組を通じて得た気づきや課題3/3

- （今年度の取組を通して）プロジェクトにおいて「誰が」実行するのが、明確であることは重要。また、キープレイヤー自身が、人や情報等を繋ぐプラットフォームとしての役割を担っているんだと実感した。

あっがい！たんてい！エコアイランドどうするべき？

# せんねん祭

千年先の宮古島市に向けた、アイディア発表会。

**オンライン + ラジオ放送**  
LIVE (FMみやこ76.5MHz)

STEP 1 せんねん祭で発表者のアイディアを聞く。  
STEP 2 アイディアに対して賛同の声を届ける。

2022年2月20日(日)13:00-15:00 せんねん祭の詳細はQRコードから

主催：宮古島市 企画政策部 エコアイランド推進課

**出場者1. 松原正明 さん**  
宮古島ルーツ。料理人で自然栽培農家。元カフェ「らふみ」経営。「工房ぬまの森」オーナー。

**出場者2. 佐々木有希 さん**  
城辺出身2児の母。コミュニティ「宮古は日ごとキレイになっている！」発起人。

**課題**

- ✓ 害獣として殺処分され廃棄されるクジャク
- ✓ 食卓に並ぶお肉は輸入に頼っている現状

**アイディア**

クジャクを育ててお肉を輸出する

道路・畑・茂みにポイ捨てゴミが存在  
いくら拾ってもゴミが無くなる現状

ごみゼロの島を達成する為のごみゼロネットワークをつくる！

～ 賛同の声を届ける機会～

① WEBを通して 食育の機会をつくりたい！

賛同の声を届ける期間：2022年2月20日(日)～2022年3月6日(日)

～ 賛同の声を届ける方法～

① WEBで届ける  
右側のQRコードからアクセスの上、ご回答ください。

② 電話 / メールで届ける  
右側の＜賛同内容＞に沿ってご回答ください。  
【電話】0980-73-0950  
（受付時間：平日9:00-16:00）  
【メール】simpla385@gmail.com

**＜賛同内容＞**

Q1. どの出場者を支援しますか？ **両方の支援も大歓迎！**

Q2. どのような支援方法を選びますか？  
※ 支援内容によって、お名前とご連絡先を頂く場合がございます。

支援1： 賛同する！ ・ いいね！  
支援2： 活動に参加する！  
支援3： 活動の運営メンバーになる！  
支援4： 寄付する！  
支援5： 自由記述（ご自身の最適な支援のカタチを教えてください）



# 振り返り & 今後の展望

- 1年目においては、多数の地域ワークショップの実施や、宮古島市版マンガラ作りを通して、「ありたい姿」を描くことを通じて市民との対話の重要性を認識した。
- 2年目では、市民・民間・行政が連携し、取組を進めていくためのプラットフォームを構築に向け取り組んだ。明確な手法がわからない時期もあったが、事業を共に進める「コアメンバー」や、ご助言を頂いている龍谷大学深尾教授や、MURCとのミーティングにより深い議論が実施できたからこそ、財団法人設立を目指すということが定まった。
- 今年度は、宮古島市で新たな市民プロジェクトを創出するプラットフォーム構築と運営に尽力をした。市民との対話の場や、発信、また「せんねん祭」で市民からの新アイデア発表など、実際にイベントを実行することで、更なる市民の巻き込みや民間との連携を探るきっかけが生まれた。事業は次年度以降も継続をしていく予定。
- 財団法人設立に向けた初動と設立後の課題や財政面の工夫などについて、財団法人設立と運営に携わっている世田谷区コミュニティ財団の水谷様にアドバイザーとして入って頂き定期的に進捗確認やアドバイスをいただいた。その他リモートにより泉北ニュータウンやみらいファンド沖縄、海士町の阿部様を取組のヒアリングを実施。  
東近江市の三方よし基金へはリモートに加え現地視察を行った。
- 次年度は、財団法人設立に向け収集した情報活用し、市民や民間を巻き込みながら法人設立の機運を高めて実現したい。